

相模原市都市計画マスタープラン一部改定版
(広域交流拠点編)(案)に対する
意見と市の考え方

募集期間 平成28年6月15日(水)から平成28年7月22日(金)まで

意見提出者数 8人

意見件数 17件

担当課 都市計画課 042-769-8247

| No | 分類 | No | 意見数 |
|----|-------------------|---------|-----|
| 1 | まちづくりや都市構造に関する意見 | 1, 2 | 2 |
| 2 | まちづくりへの市民参加に関する意見 | 3 ~ 6 | 4 |
| 3 | 広域交流拠点に関する意見 | 7 ~ 14 | 8 |
| 4 | 交通ネットワークに関する意見 | 15 ~ 17 | 3 |

| No. | 意見の内容 | 市の考え方 |
|-----|--|--|
| 1 | <p>マスタープランは、リニア新幹線の市内設置駅計画を踏まえているが、その計画駅を軸に据えた計画そのものが、きわめて成果の危ういものと考えるべきで、見直すべき。</p> <p>大都市指向・人工市街地型の巨大開発は、人口減少社会には見合わないものだと考える。</p> <p>マスタープランの基本を、リニア計画を核としないまちづくりとし、市民生活密着の視点から見直すことが必要だと考える。</p> | <p>リニア中央新幹線の開通を見据えた広域交流拠点の形成については、幅広く市民の方々からご意見をいただいて策定した、現行の都市計画マスタープランにおいても、位置付けしており、市といたしましても、本市の将来にわたる持続的な発展を図る上で大変重要であると考えております。</p> <p>人口減少や少子高齢社会の進展が予想される中、将来にわたって市民福祉の維持向上を図るためには、都市力を向上させる必要があり、この広域交流拠点のまちづくりに取り組むことで、新たな成長の源泉を形成することにつながり、今後の諸課題に対応しうる都市力を備えていくものと考えております。</p> |
| 2 | <p>すでに高度成長期は過ぎているので、環境に配慮したまちの未来像を具体的に作っていくことを期待したい。駅前に巨大な高層ビルをたて、企業を誘致するといったことでなく、駅前に大きな緑地を残したり、CLTを使った形での木造ビルを増やすことなどで、世界に名だたる環境都市のイメージを作るような差別化の方策があるのではないだろうか。緑の多いエリアもある相模原市は、本来の田園都市を目指せる好位置にあるという考え方もできると思う。</p> <p>どこにでもある日本の都市にするのではなく、明確に環境、暮らし、超高齢化社会対応のビジョンを持った開発を行うことで、世界的に注目される相模原市になることを期待したい。</p> | <p>現行の都市計画マスタープランにおいて、都市づくりの基本目標の一つとして「やすらぎと潤いがあふれる環境共生都市」を掲げております。</p> <p>また、広域交流拠点整備計画（案）においても、第4章6低炭素まちづくりにおいて、両駅周辺地区の整備に当たっては、低炭素まちづくりに資する観点に配慮することとしております。</p> <p>このことから、特色ある環境都市としてのご提案などについても、今後具体的な整備の段階で検討してまいりたいと考えております。</p> |
| 3 | <p>市として大きな変更、莫大な予算、市の将来を左右していく案を2か所のみで済ますのは間違っている。再度、説明会を開くべきであり、南区、津久井等広範な地域で説明会を複数回開催すべきである。</p> <p>膨大な税金、時間を使う事業の説明会に市長、局長、部長が責任をもって出席するべきである。</p> | <p>パブリックコメントやどなたにもご参加いただける市民説明会について、広報さがみはらや市ホームページで周知し、実施いたしました。</p> <p>今後も、まちづくり会議や出前講座などを活用するなど、個別の事業化に向けた検討において幅広い層からのご意見をお伺いする機会を設けてまいりたいと考えております。</p> |
| 4 | <p>橋本にリニアの駅が来ることは周知されていると思うが、緑区鳥屋の地上に変電施設をつくることは市民のほとんどが知らないと思う。リニアの計画、広域交流拠点の計画をもっと広く、市民に周知させてほしい。</p> | |

| No. | 意見の内容 | 市の考え方 |
|-----|--|---|
| 5 | 基本案自体に市民への意見の聴取、アンケートなどを行った形跡がない。審議会の構成、意見も限られている。行政の独断専行型の計画である。相模原は相変わらず市民無視の箱もの行政が続いている。 | 現行の都市計画マスタープランは、幅広く市民の方々からご意見をいただき策定したもので、広域交流拠点のまちづくりについては、すでに現行プランに位置付けているものです。その後の取組については、一部改定版の6ページに記載しております。 |
| 6 | 市民への情報の伝達が全く足りない。地域の会議等が行われているが伝わってこない。基本計画も市民が意見を述べる段階までいかない紙上の空論、事業のプロセス、予算の規模も明確にできない妄想である。 | 今後についても、まちづくり会議や出前講座などを活用するなど、個別の事業化に向けた検討において幅広い層からのご意見をお伺いする機会を設けてまいりたいと考えております。 |
| 7 | 相模原駅周辺の整備促進地域においては、相模総合補給廠の一部返還に伴い、国内外の人等との多様な交流を図ることを目的として、都市づくりを進めるとあるが、米軍人をはじめ外国人による犯罪が懸念されることから、返還地内への警察署の設置等により治安維持を図るべきと考える。 | 相模原駅周辺地区の防犯については、今後、相模総合補給廠一部返還地における新市街地の形成を進める中で、地元や関係団体と連携するとともに、必要に応じて神奈川県警に対策を要請するなど、安心で安全なまちづくりを進めてまいりたいと考えております。 |
| 8 | <p>現在、相模大野では伊勢丹A館B館がなくなり集合住宅、雑居ビルに変更されつつある。西側開発のポーノはテナントの撤退が激しく空き店舗も見られる。駅周辺の商店街も壊滅的である。橋本、相模原の開発も同じような道を歩むのではないかと。計画の縮小、撤退を求める。</p> <p>相模原のインフラ、特に道路の状況は合併以来整備ができていません。穴が開いても修理がなされていません。現状の整備ができない、予算もない状態で新しい開発はありえません。</p> | 具体的な施設内容の検討に当たり、いただいたご意見は参考として賜ります。 |
| 9 | 基本計画に当初予算として600億円、相模原市の負担は150億円と伝えていますが全体の予算は事業ごとに勘案していくといっている。全体の予算規模を出せない、事業プロセスがあいまい、この案に意見を言う段階ではない。 | 都市計画マスタープランは、都市づくりの総合的・体系的な方針であり、また、広域交流拠点整備計画は、道路や区画整理事業などの都市基盤整備や土地利用について、基本的な考え方を示しております。事業費については、民間活力の導入や事業スケジュールの調整など事業費の軽減や平準化の視点も踏まえ、事業の具体化に応じ、個別の事業ごとに示してまいりたいと考えております。 |

| No. | 意見の内容 | 市の考え方 |
|-----|---|--|
| 10 | <p>基本計画案にある人口、事業所などの統計がかなり古い。特に移動や経済状況の変化の激しいここ数年の統計が含まれていない。基本の数値に変化がある場合5年、10年経過の数値は大きく変わってしまう。手直しして提示すべきである。そうでなければ基本案を信用することはできない。</p> | <p>今回お示しした計画案には、人口、事業所などの統計についての記載はございませんが、少子高齢化や人口減少といった人口動態などの情勢の変化を的確に把握しながら、今後の事業を進めてまいりたいと考えております。</p> |
| 11 | <p>橋本駅周辺の開発について大きなコンセプトが記載されていますが、何よりも駅利用者の動線を考えた開発をお願いしたい。</p> <p>今の京王線橋本駅と横浜線橋本駅は、相互の乗り換えの不便さがある。乗り換え客と橋本駅降車客が重なり合い、コンコースが非常に混雑している。</p> <p>京王、JR共に改札口を複数設けて北口、南口それぞれへの動線をしっかり確保し、乗り換え客向けには専用の連絡通路を新設してほしい。</p> <p>リニアも大いに結構だが、せっかく再開発をするのなら日常生活路線を最優先に考え、それにプラスしてリニアを考えてほしい。</p> | <p>広域交流拠点整備計画第4章3リニア駅の設置を見据えた交通結節機能の強化において、京王線駅舎移設については、リニア駅と在来線間や在来線同士の乗換利便性の向上や駅周辺地区の賑わい形成など、広域交流拠点にふさわしいターミナル機能の強化において、駅移設の必要性が高いものと考え、京王線駅舎の移設を前提としたまちづくりを検討することとしております。</p> <p>今後については、いただいたご意見を参考に、鉄道事業者と協議し、駅利用者の利便性の向上を考慮しながら、具体的な検討を進めてまいります。</p> |
| 12 | <p>現在南口周辺は、パークアンドライドが出来るスペースが殆ど無いため、通勤時間帯を中心に周辺での路上駐車が横行している。</p> <p>ただでさえ道が狭いのに、これらの車のせいで、路線バスを含めた道路交通が阻害されている現状がある。</p> <p>例えば、駅前帯の地上は一般車両の立ち入りを禁止し、横浜線を地下に潜らせるより、駅直下の地下にこういうパークアンドライド向けの駐車施設を作るなど、周辺にパークアンドライドを考慮した駐車施設を作る等を検討してほしい。</p> <p>情報発信や交流・連携のゲートづくりも大いに結構ですが、これを機にこの問題にも真摯に取り組んでほしい。</p> | <p>広域交流拠点整備計画第2章4駅前空間計画において、タクシー、路線バスや一般車の乗降場の配置方針をお示ししております。</p> <p>今後については、いただいたご意見を参考に、具体的な検討を進めてまいります。</p> |
| 13 | <p>相模原・橋本共に道路の敷設で自動車の通行量は増え、排ガス汚染、CO₂排出の増大、騒音の増加など 住む人にも、来る人にも快適な環境ではない。人が訪ねたいと思うには便利さだけでなく、健康的な居心地よさが不可欠だと思</p> | <p>現行の都市計画マスタープランにおいて、都市づくりの基本目標の一つとして「やすらぎと潤いがあふれる環境共生都市」を掲げております。</p> <p>今回の広域交流拠点のまちづくりにおいて</p> |

| No. | 意見の内容 | 市の考え方 |
|-----|--|---|
| | <p>う。リニア駅上の緑も相模原のグラウンドの緑もまったく不十分で街の環境を改善する能力はない。もっともっと広い緑地に、樹木が多く茂りあかちゃんからお年寄りまでみんなに優しい都会のオアシスのような空間がほしい。</p> <p>また、買い物難民など移動の権利の平等が保障されない人々が取り残されたままです。その対策を後回しにしないでください。</p> | <p>も、広域交流拠点整備計画第2章4(4)空間形成の方針において、「緑と憩いの軸」については、環境機能として多世代が憩い、交流し、遊びや健康増進にも活用することが出来る空間として配置してまいりたいと考えております。</p> <p>また、第4章6低炭素まちづくりにおいて、両駅周辺地区の整備に当たっては、低炭素まちづくりに資する観点に配慮することとしており、具体的な施策については、ご意見を参考に今後検討してまいります。</p> <p>買い物難民については、広域的な交通ネットワークの整備を踏まえた成長産業の集積や地域資源の活用など、本市のポテンシャルを最大限に生かし、戦略的に推進していかねばならないと考えております。</p> <p>また、民間企業の活用が効果的であることから、今後、事業の周知を図るとともに、地域コミュニティを生かした地域ぐるみで支え合う仕組みづくりについても、地域や事業者からのご意見を伺いながら検討してまいりたいと考えております。</p> |
| 14 | <p>”さがみはら新都心”というスローガンについて、さいたま新都心の失敗例があるにも関わらず同じような「広域交流拠点」の計画自体に疑問です。</p> | <p>本広域交流拠点の整備推進については、首都圏南西部の広域的な交流拠点都市として、新たな都市の活力と魅力を創造するため、現行の都市計画マスタープランの「都市力を高める都市づくりの方針」に位置付けているもので、“未来を拓く さがみはら新都心”はこれに基づき平成26年6月に策定した「相模原市広域交流拠点都市推進戦略」においてお示しした広域交流拠点の理念でございます。</p> <p>少子高齢化や人口減少といった人口動態の変化が進む中、住まう人、働く人、訪れる人が魅力を感じることでできる「人や企業に選ばれるまちづくり」の実現が重要であると考えており、本理念に基づき、広域交流拠点の着実な事業推進に努めてまいります。</p> |
| 15 | <p>職業能力開発総合大学校相模原キャンパスの跡地の活用を図るために、公共交通の利用促進に向けた交通基盤の整備も必要と考える。</p> | <p>職業能力開発総合大学校相模原キャンパスの跡地の土地利用や周辺環境の変化に応じた需要や必要性を踏まえながら、今後、検討してまいります。</p> |

| No. | 意見の内容 | 市の考え方 |
|-----|---|--|
| 16 | 橋本駅及び相模原駅周辺の交通渋滞緩和および公共交通基盤の整備のために、橋本五差路の四差路化に向けた道路網の整備も必要と考える。 | <p>直接的な、橋本五差路の改善ではございませんが、本一部改定版において、新たに圏央道相模原インターチェンジからのアクセス道路として（仮称）大西大通り線の構想を追加したことは、五差路周辺の交通渋滞の緩和に繋がるものと考えております。</p> <p>なお、国道16号線の渋滞対策につきましては、道路管理者である国に対し、毎年、要望を行っているところでございます。</p> |
| 17 | JR相模線の連続立体交差化、複線化の検討も必要と考える。 | <p>現在、JR相模線の連続立体交差化の予定はございませんが、複線化を含めた輸送力増強に向けて、神奈川県や沿線市町・経済団体で構成する相模線複線化等促進期成同盟会を通じて、関係機関への要望活動等を実施しております。</p> |